

平成30年度あんしんケアセンター事業計画

区	センター名 高齢者人口 高齢化率	地区課題	活動方針	具体的な取組み(新規や取り組みの充実を中心に抜粋)
<p>中央区 高齢者人口 46,888人 高齢化率 22.76%</p>	<p>新千葉 高齢者人口 9,414人 高齢化率 24.16%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部地域に於いて住民主体の組織が自主活動を通じて主体的に地域づくりを実践している。</li> <li>他の地域に於いても、それぞれの地域特徴を活かした住民主体の地域づくり活動が展開できるよう、あんしんケアセンターとして情報収集や既存の活動団体への支援等行い住民主体の活動が活発な地域を広げていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在支援を行っている体操教室等の自主化をリーダー格となる存在の育成も含め実施し、地域活動の活性化を目指す。</li> <li>生活支援コーディネーターと連携を図りながら地域ごとのニーズの調査、分析を行い必要な社会資源の把握に努める。</li> <li>住民の多様な心配事(終活、病気、家族問題等)に対応できるよう職員が必要なスキルを身に付け総合相談への対応力を強化する。</li> </ul>	<p>介護予防体操をメインとした教室の立ち上げについて、複数年にわたり関わり自主化へ移行できるよう支援する。[新規]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に介護予防教室を開催し自主活動化に向け支援する。</li> <li>地区民生委員と打ち合わせし、年間計画を一緒に立てる。</li> </ul>
	<p>中央 高齢者人口 8,256人 高齢化率 18.98%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大きな商業地域を抱える都市部であるため市場サービスは多いが、住民による支え合い活動が極めて少なく、総合事業の住民主体サービスが存在しない。</li> <li>前年に地域ケア会議を開催した結果、支え合い活動の必要性について関係者は理解しているが、担い手不足に悩んでおり具体的な解決策を導き出せていない。また、関係機関との情報共有や連携、ネットワークの構築について、地域や職種によって温度差があることがわかった。</li> <li>高齢者人口は一定以上いるのにもかかわらず総合相談が少ない地域があり、センターの周知が不十分である可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域ケア会議や地区部会定例会、住民向けのミニ講座等、地域の人々が集まる機会を活用し、総合事業における地域の支え合い活動の大切さについて啓発活動を行う。</li> <li>地域の人たちが自主的に介護予防に取り組めるよう、関係機関と連携して介護予防教室の立ち上げや活動支援を行う。</li> <li>相談者数が少ない地域に対し、効果的なセンターの周知活動について検討していく。</li> </ul>	<p>29年度より設立となった千葉みなと地区部会におけるセンターの周知活動を行い、要支援高齢者の発見につなげる。[新規]</p> <p>栄町における介護予防教室の立ち上げ支援 [新規]</p> <p>地域課題を検討するための情報共有を目的とした個別ケースの地域ケア会議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民による支え合い活動を考えるのにあたり、地域で介護サービスを受けている人の生活状況について民生委員、ケアマネジャー、介護サービス事業所と情報共有方法について検討する。</li> </ul>
	<p>千葉寺 高齢者人口 7,274人 高齢化率 22.69%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な背景を持った方(複数の問題を抱えた家族、身寄りの無い・親族と疎遠な高齢者世帯、他者からの支援や近隣の関わりを希望しない方等)が居住しており、小地域の支え合いや見守り、各種サービス事業所の支援によって生活が継続出来ている現状があるが、社会背景(高齢者の増加、地域組織への加入率の減少)より、専門職と地域住民の連携や地域における支援ネットワークの構築が必要である。</li> <li>圏域内は坂道が多く、大きな街道(大網街道、末広街道)沿いや駅前(本千葉駅、千葉中央駅)に商店や医療機関が集中しているため、足腰が弱くなると生活のしづらさが生じる可能性がある。介護予防への意識はととも高いため、介護予防活動の自主グループの活動継続支援及び立ち上げ支援の必要性がある。</li> <li>認知症についての関心が高く、病気についての理解は進んでいる。ただし、認知症の方の支援体制について、地域差があり、地域住民の中には不安を感じている人が少なくない。認知症についての正しい理解だけでなく、認知症になっても住み慣れた地域での生活を続けられるような地域での支援体制の構築が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域資源や地域特性の把握を行い、地域団体や関係機関と連携をし、地域での支え合いや見守りの輪が町会圏域や地区社協圏域と拡大するだけでなく、支援の層が厚くなり、認知症や障害、病気があったり、介護が必要となっても地域でその人らしく生活できる仕組み・切れ目のない支援の実現を目指す。</li> <li>介護予防に関する活動や取り組みが継続して行えるように各種活動の支援を行い、住み慣れた地域での健康な生活が続けられるよう働きかけを行っていく。</li> <li>認知症や障害、病気があっても住み慣れた地域での生活を継続できるように正しい知識の普及に努め、地域住民がその人らしく生活することが出来る地域を目指す。</li> </ul>	<p>地域に暮らす高齢者の生活を支える体制作りを予定している地域に働きかけ、支え合い活動の立ち上げを目指す。[継続]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民と地域課題の共有、既存の体操教室やイベントなどへの参加・協力を通したニーズ把握等</li> </ul> <p>地域の情報を多面的に収集し、地域課題の抽出や地域の強みの発見に繋げ、地域の高齢者の適切な支援に繋げる。[充実]</p>
	<p>松ヶ丘 高齢者人口 15,779人 高齢化率 23.47%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者人口の増加に伴い、高齢の単身世帯や高齢夫婦世帯からの相談が多く寄せられている。認知症や精神疾患が原因となって日常生活に支障を及ぼす相談や老々介護、認々介護、経済的困窮といった相談も増加している。</li> <li>高齢者の方に対する地域の見守り、支援体制は整いつつあるが、高齢者の単身世帯もしくは夫婦世帯から高まりつつある生活支援の需要に対しては、住民同士の支え合いといったネットワークの構築が十分に発達するまでにはいたっていない地域がある。また、閉じこもり、引きこもりが原因で日常生活に深刻なダメージを与えているケースもあり、介護予防の観点から高齢者が歩いて通える範囲に「住民同士の通いの場」が必要であるが、そういった社会資源が整っていない地域もあり、今後は地域包括ケア実現のための基盤整備を進めていくため、地域包括支援ネットワークの構築が重要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域に住む高齢者一人ひとりの人生が、より豊かでより充実したものになることを願いながら、地域包括ケアシステムの実現を目指していくとともにその基盤となる地域包括支援ネットワークの構築化に重点を置いて活動していく。</li> <li>地域包括支援ネットワークの構築に向けた活動を行うために、自分たちの圏域である地域の実情把握を生活支援コーディネーターと連携・協働しながら進めていく。また、地域ケア会議や多職種連携会議を開催し、地域、関係機関との連携、結びつきを強めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>圏域全体の地域の実情を把握するとともに、地域との「顔の見える関係づくり」に努め、地域包括支援ネットワークの構築化を進めていく。[継続]</li> <li>地域の実態把握を行うための生活支援コーディネーターと連携・連携の少ない地域にあんしんの周知活動を行っていく</li> <li>南町団地住民への戸別訪問を実施し、アンケート形式で生活状況、健康状態について調査後に統計を取り、問題点課題等について検討・把握。関係機関と支援ネットワークを構築していく。[新規]</li> <li>川戸町等の地域において実態調査(75歳以上の高齢者対象)を通して、データ収集と分析、状況把握を行う。地域のニーズに合わせた支援に向け、集いの場の立ち上げ支援等行う。生活支援コーディネーターとの連携により関わっていく。[充実]</li> </ul>
	<p>浜野 高齢者人口 24,226人 高齢化率 25.45%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>この圏域は、緑区に隣接する山側と市原市に隣接する海側に分けられるが、どちらの圏域にも入院できる病院や医療機関、大型スーパーといった生活に密着した施設が少ないことが課題となっている。</li> <li>特に山側については、JR浜野駅までが遠いため、車を運転しなくなった高齢者は公共交通機関であるバスでの移動となるが、利用者が減っていることから本数が減少傾向にあり、日常的な移動にも不便になってきている。</li> <li>もともと農業を主産業としていた地域のため、国民年金受給のみの低所得者や高齢者世帯も多く、サービス利用に関しても閉鎖的である。海側である浜野駅周辺では、マンションやアパートといった集合住宅が増えており、人口が増加している一方で、独居高齢者や高齢者世帯も増えている。また、自治会加入率が50%程度となっており、今後の町内会活動に課題がある。</li> <li>民生委員のアンケート結果から、「気軽に集まれる場所が少ない」「近所付き合いが希薄」「一人暮らしが不安」といった課題が見えてきているが、課題解決のための担い手がないことも大きな地域課題となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者が住みなれた地域でできる限り元気で生きがい・尊厳のある暮らしを継続できるよう、その人の状態に応じて、介護・予防・医療・住まい及び生活支援サービスを継続して提供していけるための「地域包括ケアシステム」の構築を推進するために、関係機関と連携を図り、多職種協働で取り組んでいく。</li> <li>高齢者だけでなく、幅広い年代の方に「あんしんケアセンター浜野」の周知活動を実施していく。</li> <li>社協生浜地区部会の地域活性化支援事業を協力し、「気軽に集まれる居場所作り」と「担い手作り」を推進していく。</li> </ul>	<p>「気軽に集まれる居場所づくり」と「地域活動の担い手づくり」に向けて、幅広い年代の方々に周知する機会を増やし、地域の支え合いが重要になることの理解を深め、地域活動の担い手を増やしていく。[充実]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>町内自治会役員向けに、あんしんケアセンターの周知活動を実施する。</li> <li>社協生浜地区部会と連携し、子育てサロン参加者に向け周知活動の実施。</li> <li>地域住民向けにボランティア講座を開催する。</li> <li>センター担当のいきいきサロンでは、圏域内の福祉事業所の方にもボランティアで参加してもらえるように呼びかける。</li> <li>社協が立ち上げる体操教室(気軽に集まれる場所作り)の担い手育成のために、健康課にヘルスサポーター養成講座を依頼する。</li> <li>地域活動を定期的に訪問し、活動されている方の悩みや課題を聞き取り、関係機関とも連携し後方支援を実施する。</li> <li>センター主催の介護予防教室等で、ボランティアを募り、継続的に活動できるようにサポート体制を整備する。</li> </ul>

※高齢者人口及び高齢化率は平成29年9月30日現在

平成30年度あんしんケアセンター事業計画

区	センター名 高齢者人口 高齢化率	地区課題	活動方針	具体的な取組み(新規や取り組みの充実を中心に抜粋)
<p><b>花見川区</b> 高齢者人口 47,845人 高齢化率 27.09%</p>	<p>こてはし台 高齢者人口 6,609人 高齢化率 35.24%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化率が50%を超える地域もあり、高齢世帯や独居高齢者も多い。また地域の支援者も高齢化が進んでいる。</li> <li>・地域によって相談件数に差がある。特に16号より北側の宇那谷町・大日町を中心に相談件数が少なく、見守り体制・自主活動・社会資源も不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民生委員や自治会、老人会、ボランティア、生活支援コーディネーター等との連携を図りながら、活動の不十分な地域への周知活動や介護予防支援の普及啓発を継続していく。</li> <li>・地域の行事やサロン、地域ケア会議等を通じ、地域住民や関係機関とのネットワーク作りを推進する。</li> </ul>	<p>あんしん周知活動と地域活動への参加〔充実〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談件数が少なくあんしんケアセンターに対して潜在的な需要はあるが、表面化せずに様々な問題が進行している可能性が高い地域があるため、支援の必要な人への早期対応により問題の進行を予防する。</li> </ul>
	<p>花見川 高齢者人口 12,220人 高齢化率 36.04%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和43年に建てられた大型団地があり、建設当初の入居者が高齢となり担当圏域の高齢化率を上げている。地域で活動している方々（自治会、民生委員等）も高齢化している。</li> <li>・入院できる病院はあるが、訪問診療ができる資源がないため、他の地域や隣接する他市で調整をやりくりしている。</li> <li>・課題が混在するケース、介護者等の家族も含めた世帯全体で支援が必要な相談内容が増えてきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで続けてきた地域への活動支援は継承し、関係や連携をより深めていけるようにする。</li> <li>・併せて連携の強化が必要な地区や関係機関等に対して、積極的な働きかけをしていく。</li> <li>・医療・介護保険制度の改正について、正しく理解し適切に対応をしていく。</li> </ul>	<p>高齢化のすすむマンションの住民が抱える課題の把握〔継続〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・困った時の身近な相談窓口として、あんしんケアセンターが周知されるよう、また、住人同士の助け合い意識が高められる事を目的として実施。</li> </ul>
	<p>さつきが丘 高齢者人口 6,785人 高齢化率 31.61%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域全体の高齢化率は31%を超え独居の後期高齢者も多いが、住民同士の支えあい活動や交流の場の取組みについては圏域内でのばらつきが見られ、各町丁の地域特性を把握し状況に応じた支援が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区特性や課題の抽出・共有を目的として圏域内の自治会単位への働きかけを行い、また、総合相談支援内容の分析を実施活用して、地域ネットワーク構築への反映、対応力向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域内の最も高齢化率の高い地区の高齢者の実態把握を行い適切な地域支援を実施する体制整備を行う。〔新規〕</li> <li>・住宅点在、交通不便地域において高齢者が孤立化しないための地域づくりを支援する。〔継続〕</li> </ul>
	<p>にれの木台 高齢者人口 5,732人 高齢化率 32.82%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当圏域は、URの中高層住宅地域である「にれの木台団地」や「西小中台団地」が存する朝日ヶ丘と西小中台の人口集中地区で圏域の約60%の人口を占め、高齢化率も33%と高い。</li> <li>・また、圏域の半分の面積を有する畑町は、古くからの集落と新興の戸建て住宅が多い低層部と広範な農村部となっている。</li> <li>・圏域の課題としては、地形的に起伏があり、階段や坂道が多いにれの木台団地は、一人暮らしや高齢者夫婦だけの世帯が多く見受けられ、閉じこもりも目立つことから、自治会、老人会及びUR都市機構並びに地域の関係組織との連携を密にし、地域に埋もれている支援を必要とする高齢者を様々な情報からアウトリーチしていくことが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会、社協地区支部、民生委員並びに市の関係組織との連携を深め、圏域内の実態把握を推進し、適切で迅速な支援体制の充実を促進する。</li> <li>・地域の社会資源を把握し連携を構築するとともに、医療・介護・福祉サービス等の様々な生活支援サービスが提供できるように、地域包括ケアネットワークの構築を積極的に推進する。</li> <li>・地域ケア会議や事例検討会等を通じて、地域の課題や様々なニーズを的確に把握するとともに、地域住民と共に課題解決に取り組む。</li> </ul>	<p>あんしんケアセンター主催健康教室〔充実〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年6月から健康教室（月1回）を実施。今後は支え合う地域のつながり支援の輪の活動も取り入れる等開催回数や内容を充実させていく。</li> </ul> <p>シニアリーダー体操教室（ひまわり）の支援〔充実〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規の教室を3月から毎週木曜日に自治会より提供された場所で開催する。</li> <li>・継続して定着できるよう、新規参加者の確保など、地域住民への広報活動を支援する。</li> </ul>
	<p>花園 高齢者人口 7,053人 高齢化率 21.52%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR新検見川駅に近い南北に広がる地域。比較的、交通の便は良く、東京のベッドタウンとして40年以上前に建てられた住宅が多い。独居・高齢者世帯も多く、高齢化率も30%を超えている地域もある。毎月の新規の相談件数も30件～40件を推移している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民組織やサロン、事業所懇談会などに積極的に顔を出し、地域住民の方と話す機会を継続して持つていけるように活動していきます。地域住民が安心して地域に住み続けられるよう、地域住民や関係機関とのつながりや連携を大事にしていきます。</li> </ul>	<p>シニアリーダー体操（はなぞの健康会館）継続支援〔充実〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民のセルフケアマネジメント意識の向上をめざし、その一手段として「はなぞの健康会館」のシニアリーダー体操が、自主的な活動により継続開催できるように支援する。</li> </ul>
	<p>幕張 高齢者人口 9,446人 高齢化率 18.07%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1930年頃に建築されたマンション群が多く当初から入居された方々は高齢期を迎える時期になっている。独居や高齢世帯、単身で未就労の子供と高齢者の世帯が増加し経済的な問題や認知症介護の問題等複合的な課題を抱えた相談が増加している。</li> <li>・自治会や老人会など小規模の自主活動的なグループはあるが参加者の高齢化や運営、役割分担や引継ぎ等が円滑にすすんでいない集団もあり夫々に継続が難しくなる可能性が高くなってきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域内での課題の把握・分析をおこない住民が自主的に活動してゆけるよう支援をし、地域包括ケアシステムの基盤整備を目指し、住民組織や多職種・多機関の連携を強化し顔の見える関係づくりを助け、様々なネットワークの構築を進める。</li> </ul>	<p>地域課題検討にむけた地域ケア会議を通して、支え合い活動グループ立上げに向け必要な支援、助言等をおこなう。〔継続〕</p> <p>独居や高齢世帯の多い県営住宅における高齢者全戸へのニーズ調査〔新規〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査内容について意見交換を実施し、交流の場立ち上げに付ける。</li> </ul>

※高齢者人口及び高齢化率は平成29年9月30日現在

平成30年度あんしんケアセンター事業計画

区	センター名 高齢者人口 高齢化率	地区課題	活動方針	具体的な取組み(新規や取り組みの充実を中心に抜粋)
<p>稲毛区</p> <p>高齢者人口 40,195人 高齢化率 25.41%</p>	<p>山王</p> <p>高齢者人口 14,181人 高齢化率 28.80%</p>	<p>・集合住宅と戸建住宅が混在している。地域コミュニティが機能している地域も多いが、高齢化から支える力が弱くなってきている。</p>	<p>・地域活動の継続・地域ケア会議の開催などを行い、地域課題の抽出・解決を目指していく。</p> <p>・宮野木出張所においても自治体などと連携し、地域包括ケアシステムの構築を目指していく。</p>	<p>・体操教室の自主化に向けた支援（シニアリーダーや教室のリーダーとなり得そうな人との打ち合わせ等） [新規]</p> <p>・いきいきサロンの運営支援（サロン関係者と運動内容についての検討、意欲向上に向けたミニ講座の開催等） [充実]</p>
	<p>園生</p> <p>高齢者人口 6,577人 高齢化率 26.30%</p>	<p>・高齢化率30%超えのエレベーターの無い団地がある。坂道が多く、買い物や通院に行くのが難しい地域がある。</p> <p>・地域づくりに積極的な地域はあるが、その担い手が高齢になりつつある。</p>	<p>・地域住民の方が積極的に地域課題の解決へ向けて動くことができるよう地域ケア会議などを開催しサポートしていく。</p> <p>・介護予防的な活動として、体操教室開催やサロン活動の支援を積極的に行っていく。</p>	<p>・認知症や介護が必要な方の介護者を支援し、介護者の負担軽減及び虐待等を防ぐため、認知症カフェの立ち上げ支援を行う。 [継続・充実]</p> <p>・セルフケアマネジメントやエンディングノートの周知（地域の集会場などでエンディングノートの紹介や周知活動を行う、健康測定会などのイベントを開催しセルフケアの重要性を説明、） [継続]</p>
	<p>天台</p> <p>高齢者人口 18,640人 高齢化率 28.92%</p>	<p>・大型団地の高齢化（44%）率が高く、独居率も高い。エレベーターがないため、閉じこもりや買物・受診が困難である高齢者の相談がある。住民は高齢者の孤独死や衰弱を防ぐための見守りづくりが課題となっている。</p> <p>・地域の見守り体制やサロン活動・自主活動が活発な地区と、高齢化が進み、地域活動の体制づくりが少ない地区がある。</p> <p>・認知症、精神疾患や生活困窮者等世帯で問題を抱えている世帯が増加している。</p>	<p>・地域別アンケートを実施し、抽出した課題に向けて地域ケア会議を行ない、課題解決に繋げていく。</p> <p>・身近なところで、高齢者が集い、介護予防を目的とした活動を継続的におこなう環境整備をする。</p> <p>・「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」を目指し、認知症カフェや認知症サポーター養成講座等、全世代に対し認知症の理解を深めていく。</p>	<p>・民生委員の役割、居宅ケアマネジャーの役割を双方で理解し合い今後の活動にいかせることを目的として、民生委員と居宅ケアマネジャーの交流会を実施。 [新規]</p> <p>・高齢化率の高い団地において、アンケートを通じた実態把握、課題分析を行う。（孤立している高齢者リストの作成 [新規]</p> <p>・認知症の相談が多い地域において、認知症サポーター養成講座や徘徊模擬訓練を実施。 [新規]</p>
	<p>小仲台</p> <p>高齢者人口 7,498人 高齢化率 22.61%</p>	<p>・住民が地域での今後の暮らし方を主体的に考える地域は、介護予防普及啓発や活動への参加も積極的であり年齢層も若い。活動目標がより明確になるように、定期的な情報提供を実施し住民の主体性が失われないように適度な距離感と信頼関係が構築できる伴走体制を持つ必要がある。</p> <p>・古くからこの地で暮らしご近所との関係がある地域では、生活のしづらさは各個人の世帯で解決を図ることが多く地域課題として表面化しにくい。地域の活動場所の参加者も年齢層が高いために、リーダー養成の対象となることはない。介護予防普及啓発等の講座提供を行っても参加者も少ない状況である。</p>	<p>・住民が主体的に活動する地域では、定期的な情報提供等を実施し、住民の主体性が失われないように、適度な距離感と信頼関係が構築できる伴走体制を持つ。</p> <p>・古くからの近所づきあいが基盤となっている地域では、幅広い年齢層を対象に、介護予防普及啓発活動やあんしんケアセンターの周知活動の継続と地域での暮らし方を考えられるよう働きかけを行う。</p>	<p>毎月、体操教室を開催し、自主活動に繋げ、29年度は出張相談とミニ講座を計画的に実施してきた地域において、30年度は、<u>認知症徘徊模擬訓練、地域ケア会議、認知症サポーター養成講座等の実施</u>を行い、認知症になっても長く暮らす地域づくりに向けて支援する。 [新規]</p>
	<p>稲毛</p> <p>高齢者人口 6,549人 高齢化率 20.39%</p>	<p>・高齢者人口が約6,000人を超えるも、大型マンションが建設され高齢化率は20%に留まっている。</p> <p>・一方、団塊世代の方が多く居住している地域で、今後急速に高齢化が進む地域とも言われており、最近では若年層の認知症相談も増加傾向であること、ひとり暮らしの高齢者の相談も増加し、成年後見人の必要性や消費者被害対策の必要性も感じられる。</p> <p>・地域的に利便性は良いが、少しでも体力を落とすと生活に不自由が出てしまうことがあり、地域での協力体制が必要不可欠となってきている。</p> <p>・少しずつ地域単位での交流の場が開催されるようになってきたが、今後継続することや参加の促しを発展させていくことが重要となってきている。</p>	<p>・地域診断を行うことで社会資源の発掘や開拓を実施し、高齢者の取り巻く問題に対応が出来るよう関係機関とのネットワークを図りながら推進していく。</p> <p>・団塊世代の方が地域で活躍ができる場や介護予防に取り組むことが出来るよう支援の強化を行う。</p> <p>・ひとり暮らしの高齢者が多くなってきているため、関係機関と連携を図りながら少しでも地域とのつながりを持てるように努める。</p>	<p>地域に介護予防普及を推進していくため、高齢者のニーズ調査を行い、必要としている社会資源の発掘・開拓に向け働きかける。</p> <p>・自治会館や公民館での活動できる場所の開拓 [新規]</p> <p>・地域課題検討に向けた地域ケア会議 [充実]</p> <p>・高齢者全戸ニーズ調査を実施 [新規]</p> <p>・介護予防教室の開催 [新規]</p>

※高齢者人口及び高齢化率は平成29年9月30日現在

平成30年度あんしんケアセンター事業計画

区	センター名 高齢者人口 高齢化率	地区課題	活動方針	具体的な取組み(新規や取り組みの充実を中心に抜粋)
<p><b>若葉区</b> 高齢者人口 44,966人 高齢化率 30.01%</p>	<p>みつわ台 高齢者人口 7,374人 高齢化率 24.02%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会の数が多く地域を細分化している。自治会活動をする場が少なく、自治会活動に支障をきたしている。</li> <li>昔から住んでいる居住者と新興住宅が混在している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活支援コーディネーターと連携を図りながら、NPO、ボランティア活動等によるサービス資源の開発を支援する。</li> <li>地域ケア会議等で地域の支え合い活動を推奨し、発足を支援する。</li> </ul>	<p>圏域の中で高齢化率の一番高い公団の団地において、閉じこもり等の地域課題共有化に向けた地域ケア会議を実施。高齢者の活性化に向けて支援する。〔継続〕</p>
	<p>都賀 高齢者人口 9,203人 高齢化率 27.43%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>駅周辺は高齢化率30%弱であるが、5つの地域のうち2つが高齢化率40%台後半で、独居・高齢者世帯が多い。</li> <li>危機感を持ち、地域の活動が活発な地域でも、ボランティアも高齢化してきており、担い手も少なくなっている。老々介護をしている世帯も多く、介護に関する相談は増えている。</li> <li>同一町内でも高齢化率の高い地区と低い地区が混在している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民が住み慣れた町で生活を継続できるよう、区保健福祉センターや社会福祉協議会、生活支援コーディネーター等と連携して地域課題を把握し、解決できるよう取り組む。</li> <li>あんしんケアセンターの業務内容の周知活動を継続する。</li> </ul>	<p>地域への出張相談を通して、あんしんケアセンターの周知を図り、相談しやすい環境を提供すると共に、地域に埋もれているニーズを把握する。〔継続〕</p>
	<p>桜木 高齢者人口 8,177人 高齢化率 25.90%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>圏域は公営住宅も一部あるが、全体的には戸建ての住宅が多い。町丁毎の高齢化率をみると、18.06%～35.73%と差はあるが、平均は25.87%と若葉区の中では比較的高齢化率は低い。</li> <li>地域住民の地域福祉に関する意識は比較的高いが、社会福祉協議会地区部会との連携には差がある。身寄りのいない一人暮らしの高齢者や介護者に精神疾患等問題がある等複合的な問題を抱えているケースが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>29年度の圏域変更に伴い担当地域が縮小したので、若葉区全体の活動と共に地域に根差した当センターならではの活動を展開する。</li> </ul>	<p>桜木圏内多職種連携会議（または、加曾利地区多職種連携会議）を開催し、圏域の医療との連携強化を図る。〔新規〕</p>
	<p>千城台 高齢者人口 12,376人 高齢化率 33.75%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当圏域の総人口は、当センター開設時の平成24年10月末時点と平成29年12月末時点と比較して310人の減少、一方高齢者人口は1,190人の増加で高齢化が進行し、高齢化率は33.8%となっている。</li> <li>モノレール沿線の戸建住宅には単身高齢者や高齢者夫婦のみの世帯が増加、また、市営住宅や県営住宅には地域との関係性が希薄な単身高齢者が居住している。</li> <li>地域の見守りが機能している地域もあるが、生活課題を抱えたまま問題の表面化が遅れ、認知症や精神疾患、経済的困窮等の相談が増加傾向にあり、生活課題の早期発見に向けて地域の関係団体や医療介護機関、行政との連携を更に強化する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>圏域内各団体との意見交換や情報提供等の交流機会を設け、地域高齢者の現状把握やその機会を通じてセンターからの情報発信等、関係機関との連携を推進することで、地域内の課題を把握し解決に向けて関係機関との協働を行いながら、地域特性に応じた地域包括ケアシステムの構築に努めます。</li> <li>介護予防の必要性や自立支援の理念を普及啓発し、住民主体の自主的な活動が活性化されるよう高齢者自身も支援の担い手として参加できるように重要性を地域住民や関係機関へ周知し地域特性に応じた活動を行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区部会サロンでの「お困りごと相談会」及び「講話」の開催〔継続〕</li> <li>地区部会、福祉施設及びあんしんケアセンター千城台との協働による「会食」の立ち上げ〔新規〕</li> </ul>
	<p>大宮台 高齢者人口 7,836人 高齢化率 45.15%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢化率45%を超える圏域であり、独居や高齢者世帯が多く、認知症（疑い）の方が増えている。</li> <li>圏域内の商店や開業医が減っており、交通の利便性も良くないため、生活に支障が出ている。</li> <li>集落が点在している地域特性があり、何らかのニーズを持っていてもサービスにつながっていなかったり、問題を抱えたまま生活しているケースが考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各地域における地区特性や実情を踏まえて、地域ケア会議等を通じて地域住民が抱える課題を把握し、地域の様々な関係機関と連携を図りながら、「地域包括ケアシステム」の構築・推進に取り組みます。</li> </ul>	<p>28年度より、買い物に困っている高齢者の多い地域の地域課題について、地区部会へ関わり共に考えてきたが、30年度は、地域ケア会議を開催していく。〔充実〕</p>

※高齢者人口及び高齢化率は平成29年9月30日現在

平成30年度あんしんケアセンター事業計画

区	センター名 高齢者人口 高齢化率	地区課題	活動方針	具体的な取組み(新規や取り組みの充実を中心に抜粋)
<p>緑区</p> <p>高齢者人口 27,423人 高齢化率 21.34%</p>	<p>鎌取</p> <p>高齢者人口 9,180人 高齢化率 15.17%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域特性は鎌取駅を中心とした繁華街、住宅街、古くからの農村地帯、昭和50年から60年代に建設された公営住宅5か所など多岐に渡る。</li> <li>高齢化率は14.9%で千葉市内で最も低く、5～10年後には高齢化率が急激に伸びると予測され、介護予防や生活支援体制の受け皿が不足する事が見込まれる。</li> <li>呼び寄せ高齢者が多い地域や、自治会加入率が低迷している地域がある。地域づくりや支援体制に地域差が生じているとともに、担い手の高齢化がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>圏域の人口は6万人と非常に多いため、より詳細に各地区の特性と課題の把握に努め、地域包括ケアシステムの構築を目指す。手段として地域課題に応じた地域ケア会議を開催する。</li> <li>後期高齢者の割合は6%と低いため、要介護状態に陥らないよう外出の場やサロン、体操教室等でセルフケアの重要性をアプローチするほか、必要な社会資源を住民が創設していけるよう関心を高めていく。</li> <li>平山地区で認知症サポーターの養成を進め、地域全体で認知症に対する理解を深めるために、認知症徘徊訓練を実施する。</li> <li>おゆみ野地区で地域住民の感じている課題と介護支援専門員やリハ・パートナー等の専門職が感じている地域課題のすり合わせを行い、地域の理解を深める。この活動を重ね、住民と専門職を繋ぎ、おゆみ野地区の地域包括ケアシステム構築に向けたきっかけ作りを行う。</li> </ul>	<p>若い世代を含め、多世代に地域の現状について情報発信を行い、課題を共有することで自主活動への意欲を向上させることができるよう支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自治会や民生委員児童委員協議会での説明、広報紙及びあんしん・あんぜんだよりによる周知。[充実]</li> <li>介護支援専門員やリハ・パートナーなどの専門職と地域住民に参加してもらい住民座談会を実施 [新規]</li> </ul>
	<p>誉田</p> <p>高齢者人口 6,128人 高齢化率 27.08%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>圏域は誉田中学校区と同一の4町で構成され、緑区中心部から離れていて、行政の窓口は遠い。</li> <li>駅周辺を除くと、交通の便が悪く、元気な高齢者であっても外出がしにくい。</li> <li>社協や町内会の活動は続いているが、新しい活動やNPOが育ちにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護予防の啓発や活動支援に一層力を入れ、高齢者の自立が促進できるような環境を作り出す。</li> <li>複数の課題を抱えたケースの課題解決に向けて、より包括的な支援を行う。</li> <li>地域課題について地域ケア会議で解決を探るとともに、他の会議においても検討する時間を設けて多角的に解決を図る。</li> </ul>	<p>地域に必要な支援を住民が主体となって立ち上げられるよう住民の活動支援を行う。(30年度にアンケート調査によるニーズ把握を実施し、その後、ワークショップ開催に向けていく。[新規])</p>
	<p>土気</p> <p>高齢者人口 12,115人 高齢化率 26.72%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て世代の転入で高齢化率が10%に満たない地区が一部あるが、昭和50～60年代頃に宅地開発された地区等は高齢化率が45%を超えており、類似した地域が複数あり、多くの地区で高齢化が進行している。</li> <li>単身や高齢者夫婦のみの世帯が多く、孤独死の発生や老老介護の状況も多く見られる。また、同居家族が精神疾患や障害を抱えていたり、経済的に困窮していたり等複合的な課題を抱える高齢者に関する相談が増加している。</li> <li>圏域内に入院可能な医療機関が一か所しかなく、総合病院ではない為、他区や他市の医療機関へ入院や通院をしなければならず、入院や退院後の通院時困る高齢者が多い。</li> <li>圏域全体的に交通の便が悪く、通院や買い物等移動に困る高齢者が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢化率が高い地域について関係機関との連携を強化、支援ネットワークを密にし、徘徊高齢者声掛け訓練等地域への働きかけを積極的に行なっていく。</li> <li>高齢化率が比較的低い地区では、スーパーでの出張健康相談の開催等センターの周知活動を積極的に実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢化が進行している地域において、認知症の方への理解や見守り、声掛けについて住民意識を高めるため、認知症SOS声掛け訓練の実施に向けて自治会関係者及び関係団体等への働きかけと調整を図っていく。[新規]</li> <li>人が多く集まるスーパーの空きスペースを利用し、あんしんケアセンターの周知を図ると共に、健康増進や介護予防の普及啓発を図る。[新規]</li> </ul>

※高齢者人口及び高齢化率は平成29年9月30日現在

平成30年度あんしんケアセンター事業計画

区	センター名 高齢者人口 高齢化率	地区課題	活動方針	具体的な取組み(新規や取り組みの充実を中心に抜粋)
	真砂 高齢者人口 7,659人 高齢化率 31.06%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 独居・高齢世帯が多く、中でも新しく転入する人（呼び寄せ高齢者・外国人等も含む）が増えてきている。このため近隣との交流が希薄なため問題が潜在化しやすい。</li> <li>・ エレベーターのない高層住宅が多数あり、外出が困難となり高齢者の閉じこもりが問題となっている。</li> <li>・ 圏域に医療機関及び介護サービス事業所が少ないため、在宅医療や自立支援に向けた社会資源の選択に懸念がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援が必要な高齢者の早期発見に努め、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるように適切な支援につなげる。</li> <li>・ 地域包括ケアシステムの推進に向けて、新たな社会資源の発掘や地域の関係機関や関係団体とのネットワーク構築を図る。</li> <li>・ 総合事業利用対象者に対し、適切なサービスが効果的に提供されるよう必要な援助を行う。</li> </ul>	<p>地域住民が自らのセルフケア・セルフマネジメントの促進を図り、介護が必要になっても住み慣れた地域で、自身の選択でサービスを選ぶことができるよう、<u>真砂地域に事業所のある介護保険サービス事業者のマップを作成。</u> [新規]</p>
	磯辺 高齢者人口 12,055人 高齢化率 20.95%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地区により高齢化率や地域特性にも大きな差がある。</li> <li>・ 美浜区の中でも磯辺は高齢化率が高い地区。圏域内には2ヶ所の県営住宅があるが、それ以外は持ち家率は高く、比較的経済的に安定している。エレベーターのない中層団地が多く外出困難となってくる。</li> <li>・ 圏域内には医療機関、介護事業所、商店などの社会資源が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各関係機関（保健福祉センター、医療機関、民生委員、自治会、社会福祉協議会等）との連携を深め協働、各地区の課題を明確にし、地域包括ケアシステムの構築へ向け取り組む。</li> <li>・ 関係機関との連携を取りながら地域での住民主体となれる活動の促進を図る。</li> </ul>	<p>磯辺地区の住民主体によるサービスについて、これまでどのような運用をしていくのか、準備委員会に参加してきた。30年4月から「住民主体による訪問型サービス」がスタートするにあたり、<u>円滑な運営のための支援を行っていく。</u> [新規]</p>
美浜区 高齢者人口 37,630人 高齢化率 25.37%	高洲 高齢者人口 12,207人 高齢化率 26.46%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当地域における高齢者像を大別した場合、以下のとおりとなる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1、当地において以前より暮らされるコミュニティーをもった方々</li> <li>2、他県、他地域より新たな環境を求めて転入された健康面・経済面に恵まれた方々</li> <li>3、同じく他県より転入されたが身寄りが無くコミュニケーションツールもない、引き篭もりがちな方々</li> <li>4、高齢者世帯、同居者がいながらも疾患等抱える世帯の増加により、対象者の支援が困難になっている方々</li> </ol> </li> <li>・ 特に3、4に該当される方々の状況把握と課題解決に向け、積極的関与を引き続き行う。</li> <li>・ 認知症高齢者、身寄りのない住民からの相談が増えており、外国人高齢者の相談が増えていくことが今後の課題と考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 住民が住み慣れた地域で安心した生活が過ごせるように積極的に関与していく。</li> <li>・ 総合支援事業開始にあたり、地域の社会資源の把握に努め対象者に適切なケアマネジメントを行っていく。</li> <li>・ 地域で起こる問題に対してワンストップ窓口となれるように引き続き努める。</li> <li>・ 住民に対して所在を明確化し、行政の担当部署に対し積極的関与を促すための連携を図っていく。</li> <li>・ 各種会議への参加、開催により他機関との連携強化に努める。</li> <li>・ 住民型サービスの周知活動により地域の活性化を図る。</li> </ul>	<p>高齢化率が高く独居高齢者の多い公団において、住民型のサービスの確保、支援、周知により住民が積極的に予防活動に参加することで閉じこもり等の問題を解決していけるよう支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>体操教室立ち上げ支援</u> [新規]</li> <li>・ <u>各種教室、サロンの把握</u> [継続]</li> <li>・ <u>地域課題検討に向けた地域ケア会議</u> [充実]</li> <li>・ <u>社会資源冊子の更新</u> [充実]</li> <li>・ <u>UR職員との訪問によるニーズ調査</u> [継続]</li> </ul>
	幸町 高齢者人口 5,709人 高齢化率 28.60%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢独居世帯の孤立化や孤独死の問題、賃貸住宅の退去、認知症、精神障害、権利擁護の絡む複合的な問題にも取り組む必要性がある。</li> <li>・ 若年層支援の必要性も多く、ネットワークの構築が必要。</li> <li>・ エレベーターのない5階建ての団地では、上層階に住む高齢者の外出問題もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 千葉市あんしんケアセンターの運営方針に基づき、市と連携を図りながら地域包括ケアシステムの構築、強化に取り組む。</li> <li>・ 精神疾患や認知症、外部との接触を拒否する住民の存在に対し、状況把握と課題解決に向け取り組んでいく。</li> <li>・ 既存のネットワークと連携を図り、高齢者の外出の場づくり、見守り、声かけを実施する。</li> <li>・ 高齢独居世帯などに対して、健康教室や勉強会などへの参加を促し予防的な視点(地域リハビリテーションの構築も含む)での関わりを強化する。</li> <li>・ 家族関係や地域との関わりが希薄化する中で、高齢者の現状だけでなく将来的な問題を見据え、子どもの頃から地域の福祉力の向上を図る。</li> </ul>	<p>地域の住民主体サービスが継続的に運営できるよう支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の要支援者へのアンケートの実施協力 [新規]</li> <li>・ ボランティアを対象とした介護予防・日常生活支援総合事業についての講座開催 [新規]</li> <li>・ 必要な情報提供等</li> </ul> <p>地域課題の把握及び課題対応のためのネットワークを強化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 連携及び課題解決に向けた会議開催や会議への出席 [継続]</li> <li>・ 生活支援コーディネーターと連携し地域診断を実施し、効果的な支援を検討する [新規]</li> </ul>

※高齢者人口及び高齢化率は平成29年9月30日現在